

大学入試のあり方に関する 検討会議（第2回）

川嶋 太津夫
大阪大学

「大学入試」から「高大接続」へ

大学進学者の増加（進学率の上昇）
大学（入学定員）の増加
入試方法の多様化（AO入試、推薦入試）



「大学全入時代」（収容率92%）
進学希望者の二極化
「学力選抜」と「非学力選抜」



「選抜」から「相互選択へ（APの明確化）」
選抜接続から教育接続へ



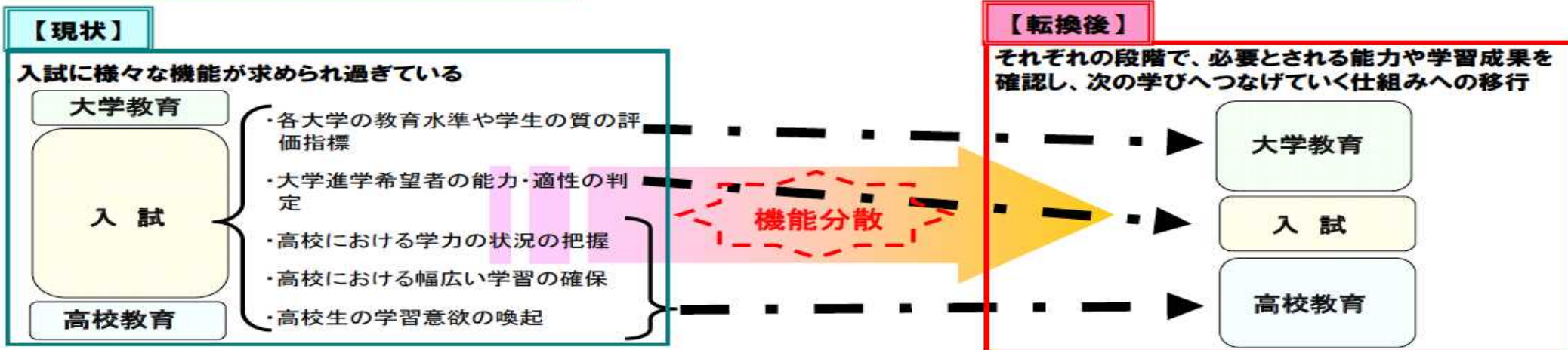
新たな社会の到来
予測が困難な時代
知識集約型社会
少子高齢社会

入試の波及効果
は限定的

大学入試の改革 ～学ぶ意欲と力を測る大学入試への転換～

1. 高校教育から一貫した質保証へ ～点からプロセスによる質保証へ～

※本年夏を目途に中央教育審議会等で検討開始



2. 教科の知識偏重の入試から「意欲・能力・適性等の多面的・総合的な評価」へ ～各大学が丁寧に選抜する入試へ転換～

※考えられる取組み例
※可能な取組から逐次着手



「高大接続」改革



多面的・総合的選抜
(大学入学共通テスト)

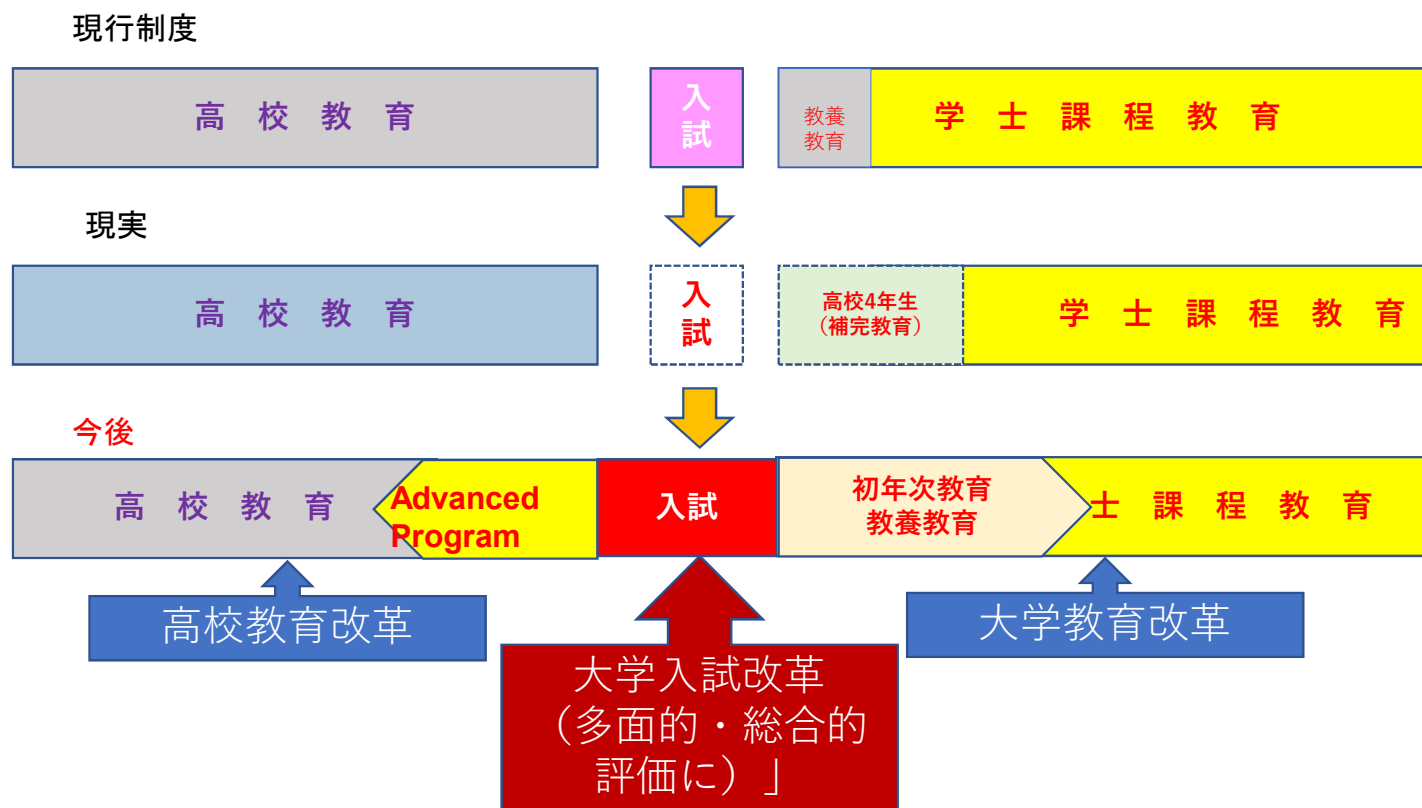


高校教育が変わるので
入試での評価を変える

大学教育が変わるので
入試での評価を変える



「大学入試」から「高大接続」へ



今後の論点（案）

0. 本会議のアジェンダ、射程の明確化、合意形成が必要。
1. 初等教育・中等教育・高等教育の学習プロセスにおける「評価」の中で大学入試をどう位置付けるのか。（高等学校での学習成果の評価、大学教育を受けるために必要な能力の評価、あるいは両者）
 - 1' 高等学校の学習成果の評価を誰が行い、大学入学者選抜でどう扱うのか。（例えば、主体性、英語4技能、表現力、調査書など）
 - 2 大学入試の位置付けが明らかになったとして、共通試験と個別試験のそれぞれの役割をどう考えるか。（共通+個別、共通のみ、個別のみの各パターン）
 - 3 教育における公平性、特に大学入試における公平性をどのように考えれば良いのか。